

平成 30 年 9 月 27 日

女子バスケットボールワールドカップ 2018 特集号 II

南部ミニバスケットボール連盟
会 長 藤原 敬一

残念でした！！

アカツキファイブ日本女子、ベスト 8 には届きませんでした！！

昨日行われた決勝トーナメント 1 回戦、中国とのゲーム、87 対 81 で敗れました。

『FIBA 女子バスケットボールワールドカップ 2018』日本の成績は世界ベスト 12 でした。

アカツキファイブ日本女子の選手の皆さん、お疲れ様でした！！そして、素晴らしいプレイとたくさんの感動をありがとうございました！！

結果が出た以上しっかり受け止め、2020 東京五輪に向けて、課題を克服に努めましょう！！

中国戦を振り返ります。

	日 本	中 国
1 P	25	19
2 P	19	27
3 P	13	21
4 P	24	21
計	81	87

1ピリの入りは、本橋（2本）、エプリンの3Pシュートが決まり、出だしは好調。2ピリは中国が3P、ポストプレイで流れを掴み差を詰める。3ピリは宮澤、オコエ、高田の3P、本橋のジャンプシュートが決まるが、他の選手のシュートが落ちる。中国は外角のシュートを確実に決める。4ピリは激しい攻防となるが日本は、2点差まで詰めるのが精いっぱいとなる。中国はポストと外を上手く使い、日本に攻撃的を絞らせずに逃げ切った。

《主なスタッツ》

	2 P	3 P	OR	DR	TO
日 本	18/43 42%	12/26 46%	12	21	11
中 国	26/49 53%	9/16 56%	10	28	13

私が4試合（予選も含めて）を観ての、日本の課題は2つです。

一つ目はディフェンスです。今回予選から気になったのは、ボールマンディフェンスのディスタンスです。離し過ぎでした。相手の3Pシュートの意識をもっとすべきです。またドライブのアタックステップに対して、足を引き過ぎます。もっと身体を張るべきです。ベルギー、プエルトリコ戦でも、足を引いて押し込まれ、得点される場面やシュート体勢のファウルがありました。

二つ目はシュートの精度です。リオ五輪の時に比べて確率は格段に上がってきています。しかし、他国は日本の戦術（3Pシュートを核とする）を研究しています。キックアウトからのエキストラパス、ポストからのリロケーションパスを含めた、3Pシュートを決め切るスキルの向上は急務です。そして、3Pシューター（確率40%）を4～5人作りたいです。今回、宮澤、高田選手の負担（オフェンスだけでも）は並大抵ではなかったです。中国戦、宮澤選手はフル出場、高田選手は39分でした。このゲームが4試合目となることを考えれば、疲労の度合いは明白です。

因みに、宮澤選手の全試合の3Pシュート確率は（14/38 37%）でした。次号に続く。